

オープン・コース・ウェアとは何か

ーキャンパスプラザ京都で考えるー

開倫塾

塾長 林明夫

Q：京都には何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)2006年7月19日にJR京都駅前にある「キャンパスプラザ京都」で開催された、公開シンポジウム「拡大するオープン・コース・ウェア」に参加するためです。

Q：オープン・コース・ウェアとは何ですか。

A：日本オープン・コース・ウェア・コンソーシアムの定義によると、「高等教育機関において正規に提供された講義および関連情報のインターネット無償公開」のことです。

世界で初めて本格的なオープン・コース・ウェアを開発したMIT(マサチューセッツ工科大学)の宮川繁教授のお話によれば、MITは2001年から学長直轄でオープン・コース・ウェアの開発に着手。現在MITで開設されている約2000の講義のうち約3分の2にあたる1400において、講義のシラバスや授業中に使用するパワーポイント用スライド、毎回の授業の課題やその解答、指定図書、学期末テストの問題とその解答などが、MITのホームページで無料公開されています。毎回の授業そのものの録画の公開も順次スタート。数年後にはMITのすべての講義の内容を何らかの形でホームページで公開することが、MITの方針だそうです。現在、毎月100万回の訪問(ビジット)がこのMITのオープン・コース・ウェア(OCW)のホームページ(<http://ocw.mit.edu>)にあり、そのうちの約30万回の訪問は、中国やインドを中心にアジアからのものであるようです。

Q：なぜ、MITでは大学の講義内容の大半を無料で全世界に公開しているのですか。

A：宮川繁先生のお話によれば、「大学の知財を人類の発展のために提供するため」です。MITの世界最先端、且つ最高レベルの講義内容を、中国やインドを中心にアジアの人々30万人がホームページを活用して毎月勉強していることは、すばらしいことであると私は感動すら覚えました。

このオープン・コース・ウェアは、MITを中心にアメリカをはじめ全世界の大学に広がりつつあります。そして、日本でもオープン・コース・ウェアを目指す大学の連合体である「日本オープン・コース・ウェア・コンソーシアム」(略称JOWC、<http://www.jocw.jp>)が2006年4月20日に発足。その活動がスタートしました。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様に考えて頂きたいことはありますか。

A：(1)高校生や保護者が大学などの高等教育機関を選択する際には、各大学のオープン・コース・ウェアを参考にするように指導して頂きたい。同時に、自校の教職員にも各大学のオープン・コース・ウェアをよく研究して適確な進路指導をするようお願いするとよいと考えます。

(2)オープン・コース・ウェアは、大学などの高等教育機関だけの専有物ではありません。学習塾、予備校、私立学校も、独自のオープン・コース・ウェアをどんどん開発し、塾生、保護者、地域社会の成功の実現のために貢献すべきと考えます。私自身は、2001年に栃木県IT・経済戦略会議委員に選任されて以来、インターネットの重要性に気付き、拙ないもので恐縮ですが、開倫塾のホームページに林明夫のコーナーを設け公開させて頂いております。

Q：最後に一言どうぞ。

A：私は、教育におけるコンピューターの活用方法としては、このオープン・コース・ウェアが最も実用的、且つ安価であり、教育成果が期待できるものと確信いたします。

自由な時間に、自由な場所で、世界中のすべての教育機関の教育内容を無料で入手することができるのが、近い未来におけるオープン・コース・ウェアであると考えからです。

ところで、日本国政府が、国家戦略としてオープン・コース・ウェアを幼児教育、学校教育、高等教育、社会教育、生涯教育、職業人教育、60歳以上の熟年教育、教育者の教育等ありとあらゆる教育に全面活用することが、ICTを活用した教育改革として最もふさわしいと確信いたします。例えば、放送大学やNHKが、放送済のすべての講義をオープン・コース・ウェアを使って教材とともに無料開放し続けられれば、高校生や大学生の学力不足問題等は一気に解決するのではないのでしょうか。

大学のリメディアル教育(補習)や導入教育(初年次教育)にも利用可能です。

是非、皆様も日本オープン・コース・ウェアコンソーシアムのホームページを通じて全世界の動きを十分知った上で、自らの教育機関ではどう取り組んだらよいのかをお考え下さい。(但し、日本人にとって最大の課題は、英語の読解能力、聴き取り能力となります。読んでわからないことは、当然聴いてもわかりませんから、大学レベルの高度な英語の読解能力が最初の難関となります。しかし、あきらめることなく頑張りましょう。)

－ 2006年9月23日記－